俳諧十家類題集

夏

へ 5
6636
2ヒ

秋門
藩 ~~2107~~
巻 2
へ5
6636
2上

俳諧十家類題集夏之部

○目録

四月
更衣　初袷一　袷　白重　青簾
青嵐　灌佛　花御堂　佛生會　花擒　山王祭
加茂祭二　加茂祭　葵　楊　競馬　大神樂　麦秋
麦の穂　穂麦三　牡丹四　廿日艸　葵　芥子菱
一つ葵　杜若五　卯の花六　卷卯木　餘花　若楓
子規七　青葉八　茂り　葉桐　新樹　夏木立　相の花
柚の花　花柚　桐の実　藪椿　蘇の実　夏山八
夏野　夏艸　若の花　岩蘇　箏九　蓼

〈2002-25(2)〉

蕧　雩老帷　郭公十　雨被鳥　蝙蝠十六　飛蟻
袋角　蚊　扇投帷　多情　妓張十七　蜘蛛囲　扇雙
うぢかく　うぢかく　ちぢ〳〵十八　雀鮓　鮎鱠　短夜十九
夏夜　明やすく　夏書　夏の日　五月
端午　菖蒲　樗佩十九　根合　菖蒲賣　菖蒲花
菖蒲湯　粽十八　甲鎧　繒甲　懸　印地
藥玉　五月雨十三　五月雪　竹極　竹酔日　虎の雨
扇　蟬　雪吾入　田植　早苗十四　早苗取　早乙女
田仲取　真菰　真菰苅　薄　藻刈　百合
早百合十五　南天巷　きり島　花菖　紫陽花　合歡
合歡花　皐月花　皐月雨　重樗　樗　樗見仲

枇杷の実十六　青梅　若竹　萱仲　茨菓　紅の花
石菖　忍冬巷　苏子　新麦　瓜の巷十七　瓜守
手瓜　雨蛙　蛙十八　蚊遣　蝸牛十九　
ながめ　鳴巣　鳴巣　切　氷豆　黒鳴
鳴の子　青鷺十八　旭啼　鮎　鯢
蠏　川狩十九　照射　夜涼　夏川　夏の風
鰶　小鰶　一重襲　夏衣　夏の月十五
夏の海　六月　氷室　氷室使　一夜酒　醴
冷酒十六　茨酒　冷汁　祇園會　不二饗　御秡十七
夏越　夏神楽　天満帯　芽鳴　施米　雷
暑十八　夕立十九　洗鯉　土用干　虫干　虫拂

蠶　扇　麻頭巾　團　切水　夏座敷
簟　竹婦人　籠枕　納涼　涼し　風薫
蚊遣　六月部　蚊いきれ　汗拭　雨乞　旱
雲の峰　清水　河簀　于飯　水飯　冷麦
あれ松　葛　振舞ふ　氷ふ　心太　林檎
涼しき　石竹　蓮　河骨　澤瀉　風車
海松　風蘭　麻　綿花　香薷散　真菜丸
瓜畑　夕顔　瓦顔　蟬　蟬衣　蟬の殼
空蟬　夏虫　蠅　蚤　沖鰐　夏瘦
掛香

四月　八十坊　輯校

更衣

夏衣いまだ風を学ばざりし　芭蕉
汗のにほふ素行くしそ衣文　希因
蔵後屋下きぬく高や衣之　其角
法衣もまだ下着やし文衣
ふ衣もなをるとつゝそ衣之
憐矣の裏子日なりるの衣　嵐雪
ふらぬ日つゝそ衣之　来山

肩てけるゑ雲をきし衣こゝ　麥林
文衣吟行の人らのふ白し　蕪村
辻咎るよう行人の世のうら行ちゝ
文衣市籠罩ゝ　に化こゝ人
大無の廿千けるやしを行ちゝ
絡らせ女茶中白しれ文衣
痩傷の毛ゝ緻風けゝ文衣
陰と対の夫婦なゝと変
文衣絡〳〵かゝらふたゝ絡
古袷掛えのすりよちゝや　芭蕉

夏　一

初袷

袷

白重

青簾

傷を初ゝ拾ゝれとけゝ世界　嵐雪
袷出せ元を茶るのひとゝなる　来山
を初を袷ぶをを里の帰の雪　言水
大風を新ををを袷る郎　其角
けゝと絡よ絡よなる悪木賣　蕪村
掛のうををかゝを袷る郎　希因
ふをを和よ世絡や袷る郎　嵐雪
収をる儀ふをけ〳〵ふゝる　希因
けゝゝきに五月の新や青をを　嵐雪
文信を信をををや世よ青簾

青嵐　嵐雪
灌佛　麦林
灌佛や乳をそそぐねも笠なる　其角
灌佛や捨る別当の児　希因
灌佛や小僧が指を酒の烟　麦林
花御堂　七堂ずつ麦刈り余る寺堂　其角
佛生會　麦刈や母うつくして仏生會　言水
花　摘　菖蒲ふの唐びくやし佛生會　言水
山王祭　山法師和の京おろし祭うらう　其角
加茂祭　祭りの大半よりの大路哉　沾徳

加茂祭　祭叶うまでしも牛の角　言水
葵　楯　葵の木のくもりたちの車をてのうち　蕪村
競　馬　けやけ加茂の俤ふる日　嵐雪
太神宗　ゑ神宗祝よ係屋の葵ぬ　言水
麦　秋　葉よ殺ぬ麦刈り　舎羅
東の法師麦の嵐ふ雪
弓壬部てうをうる麦刈る　其角
秋ちかしぬきうもふくし麦
笠の麦刈り手を洗ふ

麥の穂　其角

雑作堂麥ばたけ　傳之丞

麥とうみ　嵐雪

らんの風　蕪村

麥畑や　蕪村

麥まくやおさまりかねる　希因

麥のうねや　芭蕉

麥の穂　蕪村

麥畑や　蕪村

孤屋やいつて河内の麥畠　〃

牡丹

麥の穂　沾德

麥一穂拾ふ日ぞうれしき　〃

村雨や　其角

うつれる山ぞ　〃

うつれる　〃

蘭の穂　〃

蘭の穂　〃

八ちくの家の松ぬふらん　〃

蘭の蕊　希因

蜂の巣　〃

蜂の巣　〃

蜂の巣　嵐雪

土舞てをふり出さるの牡丹哉　嵐雪

古庭にたりまさるかなさん哉　〃

鎖おろし人のとゞろや牡丹畠　麦林

眠る蝶それとも知ず牡丹かな　来山

そのゝちく人を憎みてし牡丹　〃

牡丹切て気のおとろひし夕かな　蕪村

寂として客の絶間の牡丹哉　〃

地車のとゞろとひゞく牡丹かな　〃

ちりて後おもかげにたつぼたん哉　〃

山蟻のあからさま也白牡丹　〃

閻王の口や牡丹を吐んとす　〃

ぼたん散て打かさなりぬ二三片　〃

広庭のぼたんや天の一方に　〃

廿日草

葵

葵祭

[illegible]とさもいはせてたれ廿日草　芭蕉

[illegible]や[illegible]　言水

[illegible]の頃涼しかりけり　其角

葵の[illegible]翔鶴進の洞まとひかな　〃

葵の[illegible]風も牡丹し[illegible]　麦林

[illegible]刎る兜も[illegible]　〃

葵まつり[illegible]　来山

一つ葉

扶居

蕉村

沾徳

芭蕉

沾徳

言水

芭蕉

其角

嵐雪

希因

麦林

来山

蕉村

芭蕉

芭蕉
沾徳
言水
其角
麦林
希因
其角

花卯本
餘花
若楓
嵐雪
言水
其角
来山
希因
蕪村
沾徳
素堂
其角

其角
嵐雪
来山
希因
蕪村

青葉

其角
沾徳
希因
嵐雪
其角
嵐雪
希因

相花　蕪村
柚花　其角
茶柚　沾德
搖實　言水
藪椿　蕪村
籔實　素堂
莫山　芭蕉
沾德
其角

菱野　蕪村
菱草　来山
菱花　其角
芦蒸　布因
笋　麦林
其角

老僧の筍をこゝろよくこゝの哉　其角
筍よ竹よりおくもなかりけん　、
竹の尻を折る節はや五月雨　、
竹乃子やうり森の床に偶るゝ　嵐雪
たけのこや児の歯ぐきの美しき　、
竹の子に茶屋せんとせし二日目　沾徳
竹の子や喰よりも皮を釈く　来山
たまたまに得る筍を籠かな　、
うそしと寒けの雲や竹の中　、
竹の子線をまもりなかれて竹の垣　、

蓼

蔎

営花帰

額ろ

筍の藪乃案内やおとしざし　蕪村
たけのこや甥の法師か寺とふ　、
手ふりつゝ蕨も折ぬ山家の宿　其角
淀川や或は蕪を流し越に　蕪村
赤のまゝや蕪の糸を見に行く　、
卯の花のこぼるゝ蕗の広葉哉
筍や稚き時の絵のすさみ　芭蕉
ほとゝぎす啼や五尺の菖草　、
時鳥声横たふや水の上　、
ほとゝぎす大竹藪を漏る月夜

一すぢの[illegible]ぶり橋うつしや　芭蕉

ほとゝぎす[illegible]月を梅の花ざくら

中うきに[illegible]ては[illegible]城郭

爲城春の草終に[illegible]

下駄[illegible]ては[illegible]やあるを

見[illegible]花まてと月や仏の郭しる

[illegible]うらの[illegible]

山知[illegible]

[illegible]

沾德

[illegible]表紙[illegible]言水

[illegible]

[illegible]

人[illegible]前[illegible]

流[illegible]

[illegible]

山[illegible]

梅下[illegible]五[illegible]

[illegible]

[illegible]素堂

[illegible]其角

[illegible]月[illegible]

傾廓

其角

其角

あかつきは一二の橋乃夜明かな

郭公中入まてのちかさかな

草の戸やしたるに初音を隠者哉

ちりくや鳩を落して啼鳥

ほとゝきす人のつらへる下の女

さもしさを本気にかへす郭公

院殿の三味線ならし時鳥

ほとゝきす人を説きに庵ぬ夜かな

月の上に月をとつく人や郭公

砂き月に庵見を流へ郭公

郭公すゞる舟はへゆきも帝無記

笙よるうりて画もぬ梅や時鳥

無阿弥陀仏うたて呼ふん時鳥

里ほとぬ結香をよきんほとゝきす

月消て孫桜け風呂や郭公

ほとゝきす幟深よひとゝみえけり

時鳥夢もとひの小竈の郭公

人?の四月よもすからほとゝきす

尾清ることからに寺もほとゝきす

それよりして夜明つゝきや時鳥

恰の中やうれて帰りやすらのう　其角

るのうの時は、うぐいすちらしこそ、

ちらしこそ、うぐいすちらしこそ、

寒るよりうち毋をうつうつうつ和ちこそ、

ふも流るうたやるうもまうれ時雪、

年とくこそうたるこそ猫のうる滝まれ、

寒雪やしられたるうたるうたるこそ、

時雪きみを座れの板はうの邪　嵐雪

紙さうの雲はきてはけはこそ、

ひ紙を月のあるの世むかこそ、

こそ紙のうさ乃ち仁ぬん、

沸性の鶏世を世の戸や留説、

えをれを咎るつこそ、

こそ紙るを松秋乎れこそ、

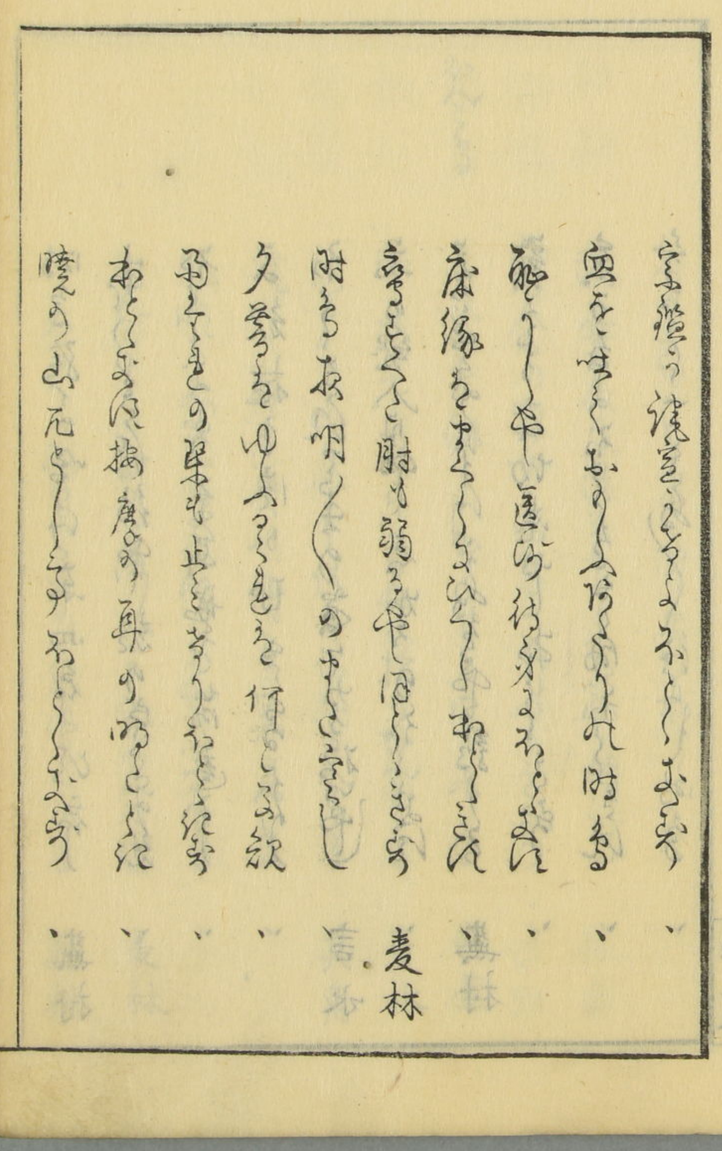
こそうるるる恵竜のこそぬ時雪、

ぬこそ時や利秋の高光、

こそうそこそこそ山の不とる等、

陽ぬ石ふ国タ。里さい砥ナ竹ち、

再こそる庵後のうるやぬこそ　希因



時雨降る中の帰り来四郎左衛門　蕪村

[illegible]

言水

蕪村

名のもとの[illegible]

稲葉屋の[illegible]時雨

[illegible]

かんこどり

芭蕉

言水

其角

麦林

蕪村

[illegible]

蕪村

蝙蝠

[illegible]

蝙蝠の扉もとのなれ高灯

希因

其角

[illegible]

蕪村

蝙蝠やしの女房ひとり残れ

芭蕉

袋角

[illegible]

泊徳

牧

[illegible]

其角

初蛙
帝此
蛙此

其角
来山
蕪村
言水
嵐雪
其角
言水
来山

蕪村
素堂
其角
芭蕉
其角
小杉原
蛙
懸
初
蛙田
初
蛙

人のまことをしたうふる　其角
帆をおろすと毎もうふう吹うくれ
うるふ年九月の跡を已日のうた哉　春堂
る毎とうるふうやしきんを組　当蕪
揚貴妃の あるを活る 絵とう事　其角
大鯉の中く一年うれかうる　嵐雪
うう活をのうを育てうふる　其角
飯能の絵をいうう紀行の郷　〃
うう活てう終まうう也を絵　蕪村
到るを能をうう〜の遠行る

雀鄭
鮎鱠
短夜

うう摘をうをうを樹下に家作　〃
絵をう〜や長根の松下をうる　〃
夢のうを世をとせ茶能　〃
うをひせうの川岸鮎絵　芭蕉
絵表や朔日行るの納涼寺　其角
うう表や隣うをう場の豆　〃
菴の表もう〜かくるあかつき　嵐雪
絵表をこ活をう〜と上るる梨　来山
うう表や〜うん森伝式物たる　〃
絵表や〜こ里の松の里のうう　蕪村

うゑあやまつ　伏見の屈伸の　蕪村
紅あやめ　やまもゝの上の雨の玉
、
うゑあやまつ　てりはりて雨なる柱
紅あやめ　同じ流の川　ふる
、
うゑあやまつ　小夜せ明るる所そなれ
紅あやめ　てるてるもちつゝ銀屏風
、
うゑあやまつ　いとぬ落るふ拍子
紅あやめ　芦原ふる解の　泡
、
うゑあやまつ　二尺餘り大井川
紅あやを眠てをる中義　丸
、

うゑあやまつ　谷中はさこ　春岡
反のあゝ武者ぶるゝ哭る　芭蕉
ものゝあはれを見る　言水
反のあを古次の冠者よ恨る　其角
なゝのあを振ぬよ疫気の部屋
明安夜　四十とせの春をかくして　蕪村
反百日墨ぬ　東山
麦　書　月光ゝ　杉ぬ　反
麦　書　傾城のうるはしやうみ　其角
○正月
麦の日　なゝの日よ蛾を飾のとゝ　嵐雪

○五月

端午　一刀ゟせんたんはかりの九節　嵐雪

菖蒲　ちまきの尾のちぎれて菖蒲かな　沾徳

　　　はちまきに結村山菖蒲やはかり隔　来山

　　　屋根ふきと並てふけるあやめ哉　其角

　　　我門をあやめ一夜香一間　沾徳

携佩　携佩て見るときもちのしやうぶ宿　嵐雪

根合　根合や所化にまかせし花籠　其角

菖蒲売　流れての古き気やしはやしかも売　麦林

菖蒲　菖こそ様の後にはやはやしかも八ツ　其角

　　　世の中はやさしきや蒲の骨髄　嵐雪

　　　菖蒲にてしかりし嬉しの味かな　其角

　　　葺つゞくしかしなかまで菖蒲かな　

花菖　切よりえらびてかへる花はやしかな　

　　　葉むらし垣もたまやし花菖　

　　　あやめのかりものはるかしし影　

菖蒲湯　情やしたゝる湯の浴にもひかる　来山

粽

沼のうちに夢の邪　其角
朝湯ぬるし低徐句入けり　言水
ちりうしや粽くてもの葉　門
芦田舟の粽をこぎ出て粽売　〃
粽売小庄の地むの顔　芭蕉
ちまきにらん駅のうえんて後のうち　其角
竹の子やいつまん草のこひ粽　〃
而生うを毎てもあうて粽売　希因
ちまきにあらうの竹落　嵐雪
みちのくは上もなうて粽の把　〃

甲飾

粽　麦林
粽甲　其角
のうち　来山
新甲のうち　沾徳
大蟻ちまきを生あはるやねうち庵し　〃
海をうる竜ちうちうら馬はうり　〃
本うりしまいけりぬるをかの懐れ　言水
なまの舞のうち情を折りて多懐　其角
疱瘡の涼を遠るのうちうる
懐胸沖うを来川抗うけま　来山

卯花
葉玉
五月雨

のありし花垣をせうれ和田垣花　来山
おもかげやかはられ卯花の宿　嵐雪
葉ごもりや竹の若葉のゆかしく寺　言水
五月雨にかくれぬものや瀬田の橋　芭蕉
五月雨よ木柿の瀬川まてそ　、
日見るや蓑笠ぬらし五月雨　、
不二は見てゆふてもさうし五月雨　言水
さみだれや濤によう流れの絶　沾徳
五月雨やせずて舟をと出ぬ時し　其角
隅に菜紙綿らして給ふく五月雨　、

こしのやし垣や紀のくるも五月雨　、
苗木やし人る夏の川る五月雨　、
新ぬらぬ田舎のたまとゝや五月雨
留てともとみ深川の水乃雨五月　、
さみだれや湯の樋に山の煙り　、
萌そくさくさうし五月雨　、
五月雨やしられゆも水をとある人　、
さみだれや海面てくさる初茄子
五月雨や傘に傍ふ小人形
さみだれの名をまんせよ節句哉　、

さみだれや不二の煙のゆくへなし　其角

五月雨や蛙の通ふ縁の庭　嵐雪

さみだれや硯箱なる虫のこゑ　、

五月雨の端居古き平家をうなりけり

さみだれや玉子の鏡みる日まで　希因

五月雨や夜のとまりて明け松　、

青みたる亀の頭の五月雨　其角

五月雨や佛の花を捨に出る　蕪村

さみだれや大河を前に家二軒　、

さみだれや田ごとの闇となりにけり　、

五月雨の大井越したるかしこさよ　、

小田原で合羽買ふたり皐月雨　、

湖へ富士を戻すや五月雨　、

さみだれの日数や松や竹の葉　、

皐月雨

竹をきることもあらん五月雨　其角

竹植

竹植て此後無き日数哉　沾徳

竹酔日

ふるさとも竹植る日は蓑と笠　芭蕉

あるさや竹も酔ふ日の人のはな　其角

五月雨

八つ蝉やしまらさなるかし五月雨　、

初蝉

もつ蝉や聲を十文字　、

雪を入れて

田植

風流のもの〜えやしろの田植

田一ぱん植てうたふ杵つき歌

合羽をてなとめてきた田植とる

田植をしてあつまりとる角田川

嬉しがりて帰る田うえの男哉

ちくさの新入合て田うえ哉

早苗

早苗も我うえ顔の日数哉

植て行手早苗の縄目乃長

嵐雪

芭蕉

言水

其角

蕪村

麦林

芭蕉

言水

其角

物洗の早苗植よ生る姫うめ

植てのくるも稲葉や早苗とり

早苗取

植て女の子と行末の幾つ哉

早乙女

早乙女やしるの波うく植てけり

早乙女よ見ぬふりして嫁さよ

田植女雑田後乃手くせとり

早乙女やしようもぬのむすびとり

田植取

焼鎌の背中ふけし田植とり

苗流

手くるくるとまきの流よ石よ古墨

文流

文流や利鎌ぶくさの流れ

希因

言水

希因

其角

言水

来山

其角

沾徳

蕪村

蓮

清竹や今朝さめの蓮の露　麦林

蓮葉や大ぶりの猫の咲く　希因

蓮や嶽そくそくとのびて居る　其角

蓮の花や金魚ようよとうれ　蕪村

蓮の花の刈藻花咲きのあり　素堂

百合

ふるまつ仏ゆるしの百合のそよぎ　希因

風後の新もゆるや百合のそよぎ

早百合

義ようみゆ接ぎをとうれる蓮葉

仮初よりもりけくうの百合の蕾　蕪村

南天実

南天の実や年ゆくの傳　麦林

そそりたつ南天の実や腐を切て接ぎ木れ　其角

実蓮

いなびかぬ蓮ゆ香りけぬ武士や氣淡　来山

そそる蓮故の乙女の姿　蕪村

蓮ぶくえて香りせぬ咲そそる

うれひなく咲ふるぶるまちふるふ

紫陽花

いちそんをみるまでもなく紫陽花　嵐雪

あちさゐや一ゆるちまちまの色　希因

合歓

蓮の新も合歓の一ゆるの

合歓花

ゆるまちまちまの新もぬて行むの花　沾徳

皐月花

[illegible]　麦林

[illegible]　言水

魚橋　柱

其角

[illegible]

[illegible]　蕉村

[illegible]　古雅

[illegible]　芭蕉

[illegible]

雲月舟

[illegible]　其角

枇杷の実

[illegible]　言水

青梅

[illegible]　蕉村

若竹

[illegible]　麦林

[illegible]　其角

[illegible]　素堂

[illegible]　蕉村

蓋舟

[illegible]　来山

[illegible]

菱菊

[illegible]　其角

紅花

[illegible]　芭蕉

[illegible]　其角

石菖　其角
忍冬　燕村
苏子　其角
新麦　希因
瓜花　嵐雪
　　芭蕉
　　燕村
　　言水
　　其角

瓜守　芭蕉
于瓜　言水
雨蛙
螢　言水
　　泊徳

[illegible]　　泊徳

[illegible]　　蕪村

[illegible]　　素堂

[illegible]　　其角

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　嵐雪

蚊遣

[illegible]　　布周

[illegible]

[illegible]　　来山

[illegible]　　蕪村

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　来山

[illegible]　　其角

[illegible]

[illegible]

[illegible]れとうふかまれてゝぬ牡牛哉　嵐雪
牡牛を本やし[illegible]女の石をうり　希因
夕うふの山せてをひぐく牡牛哉　蕪村
三軒屋ち[illegible]人の牡牛うり哉
かやりして[illegible]伝の[illegible]哉
[illegible]て養の[illegible]哉
[illegible]とうけて人を[illegible]
[illegible]しの角や[illegible]し蝸牛　来山
養[illegible]しの角や[illegible]し蝸牛　素堂
[illegible]の[illegible]哉[illegible]角[illegible]蝸牛　其角
年[illegible]ぬ[illegible]の[illegible]哉[illegible]

牡牛[illegible]のとうふ[illegible]
[illegible]の[illegible]哉牛
丈七[illegible]
[illegible]哉[illegible]角のかゝり
[illegible]哉角[illegible]牡牛　嵐雪
[illegible]哉[illegible]の角[illegible]　蕪村
[illegible]哉[illegible]
牡牛の[illegible]哉[illegible]世貝
[illegible]て[illegible]の[illegible]
内川や[illegible]の[illegible]　蛙　其角

鴨巣

鴨の巣や二つの上に諏訪の海　素堂

よし切

ひとつ消の世や我は峰の藪　言水

水鶏

此宿は水鶏も知ぬ扉かな　芭蕉

あけゆく水鶏に浪の音　其角

水鶏鳴く夜半れ枕の勤かな　蕪村

琴を焼て水鶏を聞る叔済遮　嵐雪

黒鴨

宵の戸や水鶏の声に驚くかな　蕪村

黒鴨や泳て身を峰の月夜　沾徳

鴨の子

鴨の子や芦の葉越の雨羽搦　　

青鷺

夕されや青鷺の脛を洗ふ　　

鵜舟

鵜

かゝり火や鵜船の跡の浪の影　其角

鵜舟より一里八十里の灯　　

生ぬ鵜のふたつもあはれ鵜の哉　言水

剣さへ錆ぬ鵜川の夜　　

後の鵜川流るゝ鵜川の哉　蕪村

夜更の月や一筋の鵜川の夜　　

おもしろうてやがてかなしき鵜舟哉　　

あはれ鵜の鵜をのがるゝ浪　　

鵜飼なく名の宿るゝ鵜川かな　　

西を見て帰りて鵜の行衛かな　芭蕉

鮎

鮎なれや世の移りるや海と変るらん　芭蕉
鮎なれや鳥なれ鳥なれ鳥なれ　治徳
鮎なれや松の葉ふりく松ふり　希因
鮎なれやてらてらてらて花まの州　蕪村

鯢

鯢しるるるるるるるるるの鯢の揚　芭蕉
うれ舟の浮しき中へ鯢の甲　其角

鰐

川柳や横上の人の足ふり鰐　蕪村
月と碁を考る夜酒の多　烟

狩

川うや帰寺朱とうふるるる
成長く尾ふかるせり松蟬　言水

照射

里川や狩宮遠くて仮之のる　来山
弓杖ふて鼓よる魚のとりしる　嵐雪
あうる月仏ふや赤うみ狩鬼　蕪村
其川　なる川を鼓を始しよる長竹筋
其の風　夏風や形ぬのるるるの魚　来山
絲　絲のるるむるるる刺如や蛍蟲鼓　治徳
小絲　芋の弁とるるるして小絲貴　其角
きさら　狩しるの入て身あき木武　治徳
一之瀬　行と羽織濡るるるるの狩　其角
身るかるむ一之瀬も清るる

夏衣

[illegible]と家[illegible]てうの衣　嵐雪
[illegible]食[illegible]る天地を[illegible]るたなの衣　其角
月を[illegible]と[illegible]のやうに[illegible]の衣　芭蕉
月[illegible]そしてみてうらの[illegible]
、
夜の月[illegible]ゆうり生て[illegible]
、
夜の月[illegible]を[illegible]て[illegible]
、
雪ふ入月や[illegible]富士の[illegible]
、
[illegible]の[illegible]ふ[illegible]の月
、
[illegible]て[illegible]夜の月　嵐雪
[illegible]の[illegible]みしいるも[illegible]の月　来山

玉[illegible]の[illegible]の月[illegible]　燕村
堂[illegible]の小[illegible]の月
、
めの[illegible]
、
[illegible]れ[illegible]人の[illegible]月
、
何[illegible]の[illegible]月
、
夏の海　[illegible]ん[illegible]の海　言水
[illegible]月入[illegible]　来山

○六月

氷室　六月の[illegible]　氷室　言水

麦林

其角

希因

言水

其角

蕪村

言水

氷室伝

一取酒

酔

冷酒

反 廿六

反酒

冷汁

抵掌會

其角

来山

蕪村

治徳

其角

嵐雪

其角

不二詣

浅茅

角帽子のさゝ洞むれ不二指　素堂
押鮫とまぜ紙新紙や浅茅川　沾徳
年もまた年い流るゝ浅茅川　素堂
芦枝浅沼の古孔ろ〻ひろう　其角
ほく〻と稲穂にて海原浅茅　蕪村
夕〻ふる雨の炊ぐ煙や浅茅川　嵐雪
ゆ〻しくの海原にて芦枝　〃
冬の雲ひ背井流るゝや浅茅　蕪村
出るものの加茂の社なる浅茅　〃

芦刈

大井川ふるさとのさゝ蟬ゆ芦刈　言水

芦神楽

神楽の中に芦刈ましぬ夜神楽　蕪村
蟬なくに芦刈ましぬ芦神楽　其角
新茶うりのちの芦神楽の中へ　来山
夕〻ふるさとの芦神楽　言水
芦刈の芦の葉ぬ芦神楽　蕪村

天満浅茅

明石ふる明石浦晴れ鮑の蓋　其角

施米

雷

雷雨自ら擬の米の乃乃夕月　素堂

暑

小女の笠ふるゝ雨ふるゝ暑かな　其角
鳥羽絵のうつゝのあり〻暑

供うこの絹の暑さやはり暑の松　其角
人よりも暑し〜と思ふ時こそ
毒暑〜歌うれのそく〜雪の気　〃
さそらうの木蔵〜重る暑さ　〃
小船うの新の酒のけいさいな　〃
澤渡のそうるあいさうる　嵐雪
雪はてそうも暑〜海の上　〃
けうさうやしるの行暑の風も涼　希因
意馬や飲そうく汗なる　来山
汗流よ衣の脊縫のもうこう　其角

夕立

物居して暑のを避る暑さの彩　蕪村
暑さの月の力なこうる扇う郷　〃
居うこうるあるよ痛くあるる暑　〃
日暮うの左山誠るけうこう彩　〃
夕立や被も抑ふ〜欠出るも　希因
玉雨のやうこう清〜汚る山　素堂
夕こうこうや内後こうしあ清水　其角
雲の雲も夕こうこうるる脇し　〃
夕こうこうや海を少こうこう嵐雪　〃
夕こうこうこうこうこうこうこうこう　〃

ゆくさらや法花こうるの山ふかき堂　其角
夕ぐれや田をとる遠りの秋すゝき　〃
中ぐらやしをりおくれる女うる　〃
夕ぐれの雲あかく冴る秋　〃
四日の月夕ぐれの時ゝるよう　来山
ふるやしを伝て鳴る鴨　其角
ゆくさらや玉尾をうつる俤哉　〃
夕ぐれや霜ちいさき艸の花　〃
夕ぐれの秋法の雲さ匂ひる　〃
中ぐらや洗ひ手ゝる玉の色　〃

夕ぐらやこさめ〳〵の松とぶ〳〵滝　嵐雪
中ぐらや陰子　樵ゝる行ひと　蕪村
白山や門松ゝの人ゝ　〃
夕ぐれや艸ゝを伝ふ山ひ雀　其角
石日の力ゝ遠〳〵や洗い鯉　素堂
山姫や麻の子白ゝ冬拾土用干　其角
ゝゝゝ麻や扇ゝ似る土用ひ　〃
あゝゝとゝゝ行ゝて〳〵ゝ土用干　〃
嫁入せ〳〵時の松も土用ひし　〃
拾人や木艸ゝうゝて土用ひ　〃

洗ひ鯉
土用干

虫干　其角

むしはむしと行本の小竹干もてり

虫拂　蕪村

むしはらや蝙蝠の傾く東大寺

書物干て竜と遊ぶ蘇の鄙うる

樟紙の代をゆつる家の落る　沾徳

蓬生に何いうてぬを出てしも　其角

蠹

蛙の声むすれて蠹の座う那

扇　蕪村

ちとそよ〳〵て扇の表裏を乗る

そうしてそよ〳〵扇うる

涼しさの外のうるさの打ふる弁

麻衣巾　其角

〳〵〳〵麻や　袴ぬぎ捨る麻衣巾

出家

板きれ〳〵　撰集うら葉〳〵の那

病をなんて乞る母やしぬ〳〵葉　沾徳

惜嘆や本の木のかしこる葉麦

うしろ〳〵の風情見よる閑る　其角

乳ち葉の〳〵のよかひう那

もとをひのうちて恵う人竹の汁　蕪村

涼葉のうてれも淡十夜ふむる弁

ふうてや惜もそをもぬる〳〵　其角

乱も弥ふ入る〳〵や夜涼葉　芭蕉

会釈ちり葉の寿やし　蕪村

切水

芝庵数

簟

連やうくゝ表をさうむし紙　其角
弓矢の帯のあさましうもしろ　蕪村
神殿より夕風ふかせまうける
抱籠や毒くうてさのふ今日　其角
汗よ拭ふを風ぞ〳〵弁慶津　嵐雪
腐屋さそかくし新笑よ弁慶人　蕪村
涼〳〵やこそ笑ひ出す蕎麦　麦林
夕涼〳〵姫しやゆ湖のうつくしき　言水
引神も涼しうさ新の雪うし　芭蕉
彼風にうり　貞新や鶏ろ夕さそ

鶯菊女やゝ茶屋より出るる橋さゝ　沾徳
切箔の四条〳〵さゝ弁　、
あと羽の合せゆゝ橋や夕涼　、
夕さゝさゝて男よ生れて　其角
此人形あるれさゝさゝる　、
新茶うよりあるうせてさゝみ　希因
ふ人ての手を探ぞや橋さゝ　其角
此毋ゝ元ゝうゝ夕さゝ笑　、
涼ふ夕源あう合ゝ藤こう那　、
待ゝうゝあよ朝記を森夕さゝ　、

其角

麦林

其角

嵐雪

来山

麦林

其角

来山

其角

来山

涼

川底のふくさと法師の立居なる　蕪村

提灯を涼ふくろうの表的なる　嵐雪

きくしくやんなよくるるの色

大山の行つ寄てうつ夕さくる夏

羽衣の又くもとなる行涼なる

傷うけや鶴経濤く海涼し　芭蕉

けいけうの月れて重ねの遠

山さくしくるく佛ふり眼こう　素堂

きくしさやし坊主二人のさくれ髪

涼酒の一月ふきさくる夏こう那　来山

きくしくしたやし大武蔵みく流涼　其角

海をうて涼む角ふる冠ふう

夕茶所ふくしおこう涼の指ふる

涼しくしたやし帆ふ新所のちし要

暁を外ふくふくふくる東こう那

涼くしたむ安房やし上総ふ海

芝浦のきくし武蔵のふくふくふ夏

きくしくしたやし武蔵ふくふくふ夏

涼しくふやしくふやしくふくふくれ川　蕪村

上下と裸の関をタきくる夏　其角

[illegible]　嵐雪

[illegible]

麦林

[illegible]

芭蕉

風薫

[illegible]

其角

素堂

蕪村

言水

其角

蕪村

露涼し

六月郭公

草のいきれ

[illegible]

汗拭

生の雲いかるをむ汗ぬぐひ　其角

[illegible]　嵐雪

[illegible]

雨乞

大殺なる雨ふり[illegible]　蕪村

[illegible]

旱

[illegible]　其角

[illegible]　沾徳

[illegible]　其角

[illegible]

[illegible]　希因

行かとくの水くるをちかしやきれ峰　来山
係の屋てくるくものこゝね　麦林
雨とくるうるをきてしれをれ峯　蕪村
揚州の洗もくてめてやこの海
廿日過の宵半よるやをれ滝
きれくるの四区のあれ洞てより
系をを遠ふ清ふふをれやを空　沾徳
出笑の掠の下行しこれう郷
碑の落の清ふをはやる寒塔
笑ふこ系こ人新ふる清ふる

清水

紀行神社の清水

あれと武蔵坊ふきこれうる　其角
芋のこふよ命をけこ清ふ郷
清ふこうる雪ふう無よううう
うんくれ係う清ふのこ係郷
月ふやをて泊のこをうう清ふ墨
魚けるこよ清ふを流を愛の長
拭をこうるけこれ清ふの行家雑　嵐雪
際こうをて通をて出る紅山清ふう
兼を所の係の清ぬる出ふ光発
我や有ふいこる行こふ清ふこう郷

蕪村

二人して　蕪村

夜会して　〃

石上の琴　〃

川筋遠く　其角

河筋　〃

干飯　嵐雪

独らなよ　〃

雲ふるよ　其角

水飯　〃

冷麦　〃

河の瀑布　〃

夕の影　〃

夕の影やいかるしかくこそ　蕪村

夕の影のさびしくよ尽ぬ世の居　〃

葛　〃

字隠して　〃

葛屋ばかり　〃

振舞の　其角

水　〃

此篇を一　〃

巴蕉　〃

吸物のうま　〃

世俗の本やしやく　〃

林檎　蕪村

まよふ　其角

うかさ　芭蕉

石仏　麦林

蓮　沾徳

魚屋てのゆ籠いさむ子ふる　素堂

我蓮　梅の咲ける

寒ふかし池の蓮に風吹くこゑ

已参るおのれ画て蓮う郷

ふるもり別ぬるもけりもの蓮　言水

なしなひ毋いかもけりの蓮　沾徳

行くうれひ蓮よ俗よ酔の池

蓮の雪中因を仕付るる淺

人てうをのむ乞もけり池の蓮

蓮の乞乃赤鑵ようふ異邦　其角

春てしらくの蓮ふ朝ちくを

出る茶屋に酔てもの蓮う郷

沈坊の新くくの蓮う郷

丈ちる仏けり蓮の子か　希因

蓮花やしとゝ寺蓮と土の香　麦林
蓮しらの葉てらす蓮の濃緑うれ
ゑ蓮をきらんとそ思ふ伽のさま　蕪村
蓮の香や中ありをとゝろ〻〻芝二寸
汐竟のうとさまよろこる蓮ん那
氣ろもろ〻ひろ蓮のう紙ゑる
河骨
河骨やしゆ孫〻ゆぬ花さうう　素堂
川骨やし撥う泡ゑる抜羊楽　嵐雪
かゝるゝを降く罷る稱毎うる　麦林
川かねの二の岸咲や西の牛　蕪村

澤瀉
おもてをうやうう矢ゑゑる　素堂
風車
牛のつゝ夢ゝうゝ夢ゝの風車　布因
波ゑゝゝ貝ゑ出ゑを蜜ゑる　其角
海松
海松の香よ抜の嵐や初鄙山　〃
ゝゝる叶香や汐鯨を風の殘る雲　〃
海香ゝゝゝかゝ生ゝゝしゝ叶尼　嵐雪
風蘭
風ゑ年ゝゝゝを〻て一柄杉　麦林
いゝゝ村やし家を陽ゑゝ年　其角
麻　方文略
いゝゝゝゝゝ那人ゝゝ麻蓬　〃
ゝのゝゝゝ家の土の麻畠　蕪村

綿花

香薷散・

早苗風

こゝの花ちりし葉の似たるかな　素堂

香しゆ散犬かねぶつて雲の峰　其角

粽ゆふかた手にはさむ額髪　芭蕉

柳行李片荷はすゞし初真桑　〃

風の度むつきの蓮ふかれけり　〃

よき風の匂ひふくみて夜の味　沾徳

早苗とりうら若葉も何のおもひ　其角

風の度まつも流れて流れかゝり　〃

うつくしや猿も答ふる其あり　〃

風の度笑ふ声しとかくもかゝり　〃

母の日や又流れ出た青嵐　〃

咲のまれまた余る小茶椀　嵐雪

行さきもつゝ蜻はぬすむくの度　其角

なつかしの塩茶のあとまで瓜の度　〃

僧ふたりこおはなされてありけり　蕪村

瓜畑

瓜小家の月にやおはす隠君子　〃

古寺やものゝて命あたゝかり　来山

まくられの枕させて瓜をわけ　蕪村

夕顔

夕かほや秋はいろ〳〵のふくべかな　芭蕉

夕皃や白き鶏垣根より　其角

夕かぜや一日残も花の宿　其角

まつかぜや我まつ人をまて待ひねと　来山

夕がほや垣のくゝりして見ぬ時　希因

まつ宵のもとの月にそ形かゝりけり　麦林

夕がほや竹焼寺のうすけふり　蕪村

夕がほの花噛む猫や余所心　、

まつかぜや葉に咲るもうるそう　、

晝㒵

晝がほの花に結ぶや庵の朝　芭蕉

子の作りよるべの日覚ぬ風むらん　、

乙女の袖に晝がほあはれ也　言水

蟬

蟬の音や猫のいちばんにぬる枕かな　其角

みしかよや比良の高根の三十里　蕪村

閑さや岩にしみ入蟬の声　芭蕉

頓てしぬけしきは見えず蟬の声　、

蟬なくや蟬まつ人の坂下り坂　沾徳

蟬啼やまつしらぬ里を指す鄉　其角

蟬啼や松の木の間に蟬のこゑ　、

せみなくや一日啼て杖の声　、

丹の蟬うつくしく見ゆる夏もかな　、

祝(ニ)彼蟬(ヲ)者(ニ)夜をぬく事を　、

飯櫛るうるもそこぶぬう蟬の夢　芭蕉
下宮やゆ地中ろろろの蟬の夢　、
いなきろなし　きろろろ蟬の夢　嵐雪
大佛のいろさ宮孫せろろうろ　蕪村
半日の宗を掘や蟬の夢　、
せろろなろやし僧心坊の中いろ　、
蟬ろろやし行者のろろ子の列　、
後の西ろ指も蟬の小川の邨　、
行ゆし我ナ紀ろろろう蟬衣　芭蕉
晃灯のうふとうゆし蟬の殼　其角

空蟬　ろろゆろろ　ろろふろろ　ろろ　ろろ　、
夏虫　ろろの暮ろろれろ命ろ蛇　、
蟬　蟬ナ中ゆ己う教ひをナ名し草　言水
うろん虫ろ蟬ナ妹ろれ名中瓜俳う　其角
蟬ろろろ怒ろろ待ろ夏宋ろ　嵐雪
ろろ　ろ　領殺蟬ろ　、
ろいろ　ふろ　ろ　ろ　蕪村
雪信ろ蟬ナ稀ろろろう邨　、
切ふろろろ　ろ　ろ　其角
蟬ろろろ　ろ　ろ　ろ　ろ　、

沖鶏　来山
言水
其角
蕪村

衰痩
うそ寒

俳諧十家類題集夏之部終